

2010年3月期 第1四半期決算補足資料

第2四半期連結累計期間及び通期業績予想

2009/07/27

 株式会社日立ハイテクノロジーズ

2010年3月期第1四半期決算補足資料

I 2010年3月期第1四半期 業績ハイライト

II 事業構造改革の進捗状況

III 2010年3月期 業績予想

IV 参考：データ集

	当期実績(億円)	前年度実績(億円)	前年同期比
売上高	1,325	1,829	△28%
営業利益	△38	19	—
経常利益	△32	26	—
当期利益	△20	△2	—
一株利益	△14円73銭	△1円44銭	△13円29銭
一株純資産	1,679円50銭	1,701円74銭	△22円24銭

人員およびコストの抜本的な見直し

主な対策項目

✓ 生産設備の減損

● 設備投資・研究開発の厳選

● 人員の適正化

● たな卸資産の削減

● 休業の実施

● 徹底した販管費の見直し

✓ 08年度実施

● 08～09年度実施

1. 人員の適正化

- 10/3末目標

△1,450人(09/3末比)



計画通りに進捗

2. 休業の実施

- 事業所及び製造子会社において2～4日/月実施(09/4～6)



2Q以降も需要動向により適宜実施予定

3. たな卸資産の削減

- 09/3末
720億円



09/6末
718億円

積送品 +11億円
⇒出荷ベースで
実質△12億円

4. 販管費の削減

- 08/1Q
223億円

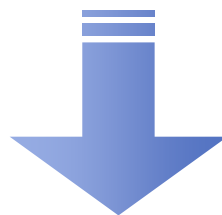


09/1Q
193億円

人件費 △12億円
旅費交通費 △6億円
技術研究費 △4億円
その他 △8億円

新事業開発への取組み継続強化

- 伸長市場向けの分析アプリケーション開発、体外診断新市場進出
- 有機EL製造装置事業参入
- 環境・エネルギー関連事業拡大



- 「新事業創生会議」にて、上記テーマを具体化
- 09/2Qより事業化検討を開始

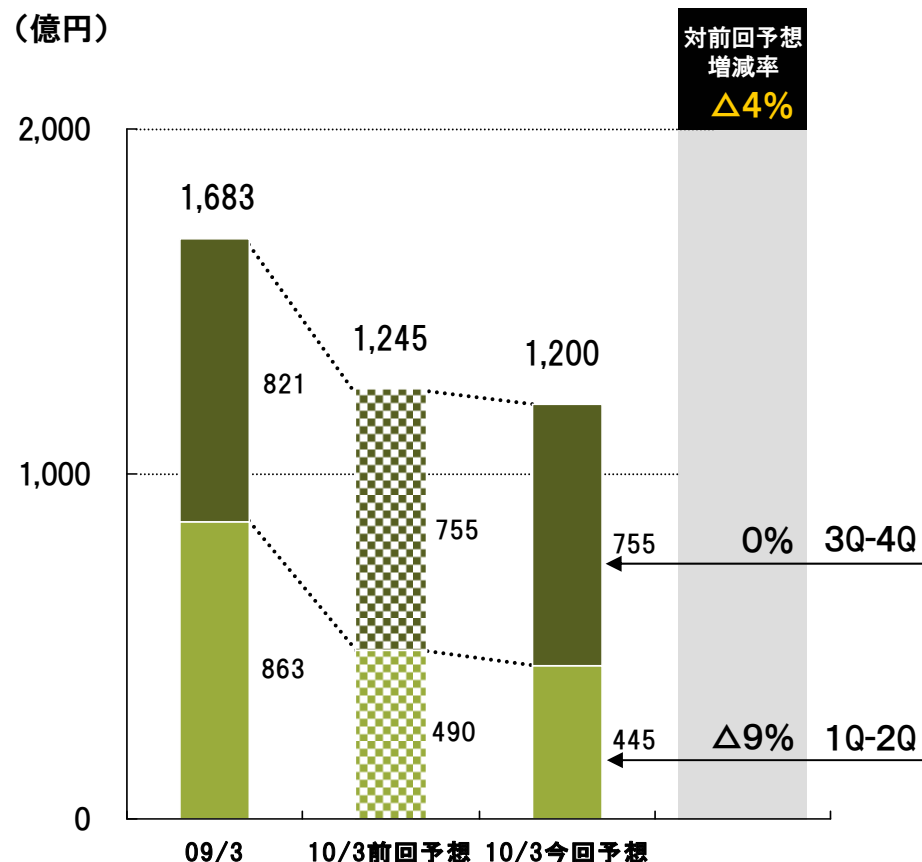
	2Q予想(億円)	前年同期比	通期予想(億円)	前年同期比
売上高	2,863	△32%	6,380	△18%
営業利益	△87	—	△47	—
経常利益	△84	—	△48	—
当期利益	△54	—	△57	—
一株利益	△38円90銭	△93円89銭	△41円44銭	△92円88銭

(注)2Q経常利益(+3億円)、当期利益(+20億円)は前回予想(2009年3月期決算発表時)より上方修正、
 その他は変更なし

(注)想定レート: 1USD= 90円
 1EUR=125円

2010年3月期 業績予想（電子デバイスシステム）

売上高



主な偏差要因等

【半導体製造装置】

- ・エッチング装置の前半はほぼ計画通り、後半は、大手顧客の投資計画が不透明なるも、拡販を目指す
- ・評価装置の前半はほぼ計画通りなるも、検査装置は顧客の投資延期により出遅れ、後半期待される投資再開へ営業強化を図る
- ・解析装置の前半は景気後退による需要減あるもほぼ計画通り、補正予算等の案件獲得により後半売上増を目指す
- ・後工程装置の前半は顧客稼働率の好転によりほぼ計画通り、後半は中国家電普及政策の影響等により更なる需要増を予想

【液晶関連製造装置】

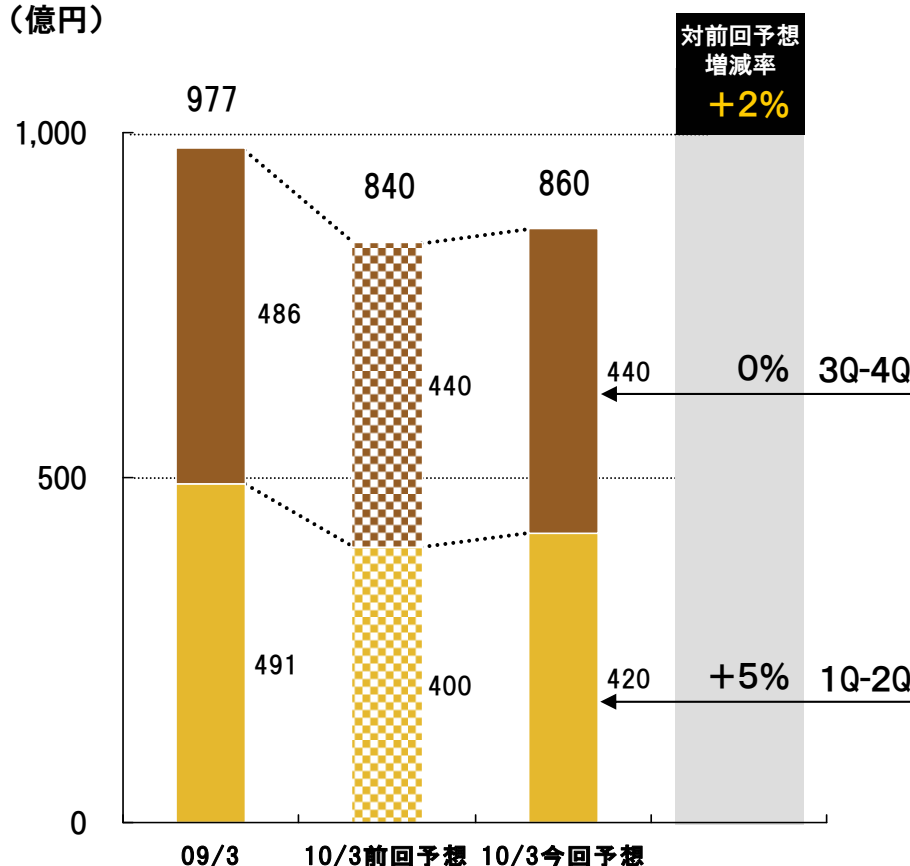
- ・前工程装置の前半は、中国家電普及政策の影響等による顧客稼働率の好転から計画比増、後半は新規増産投資の取り込みに注力
- ・後工程装置の前半は、低水準ながらほぼ計画通り、後半は需要増を見込む

2010年3月期 業績予想（ライフサイエンス）

売上高

主な偏差要因等

（億円）



【バイオ・分析】

- ・汎用分析装置の前半は、アミノ酸分析計が食品安全検査需要から堅調なるも、その他は民間設備投資低迷により計画比減、後半は補正予算案件獲得等による挽回を目指す
- ・DNAシーケンサの前半は、遺伝子鑑定需要等によりほぼ計画通り、後半も新製品投入効果等により堅調を維持

【メディカル】

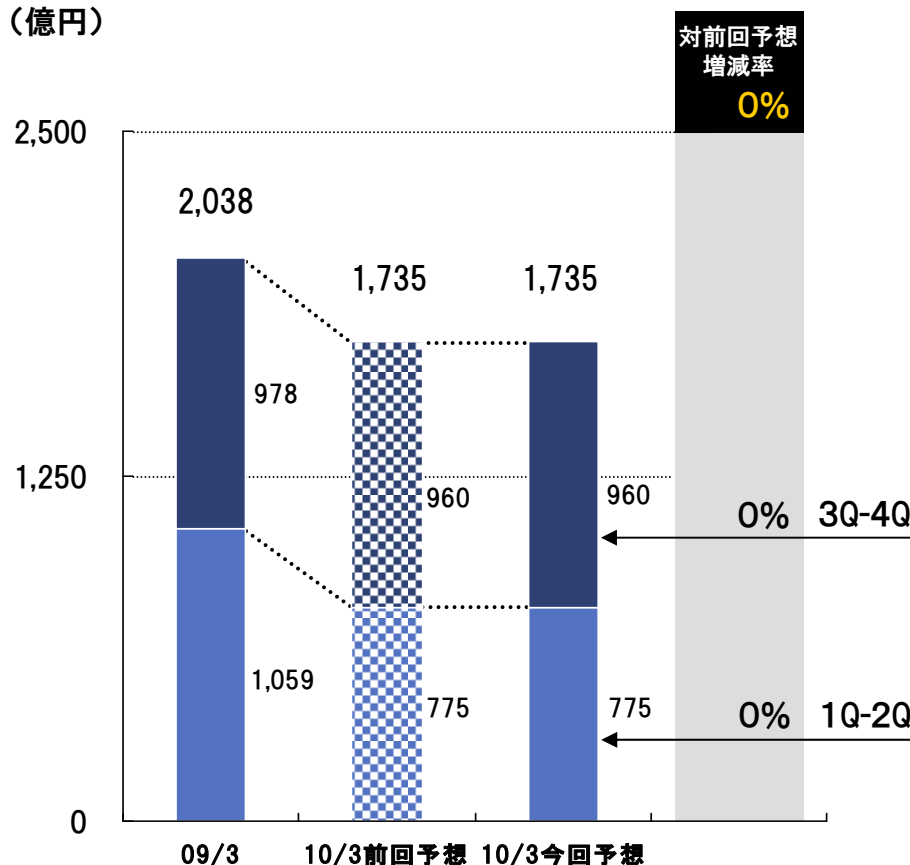
- ・医用分析装置の前半は欧米向けが堅調で計画比増、後半は新製品の市場投入等により更なる売上増を目指す

2010年3月期 業績予想（情報エレクトロニクス）

売上高

主な偏差要因等

（億円）



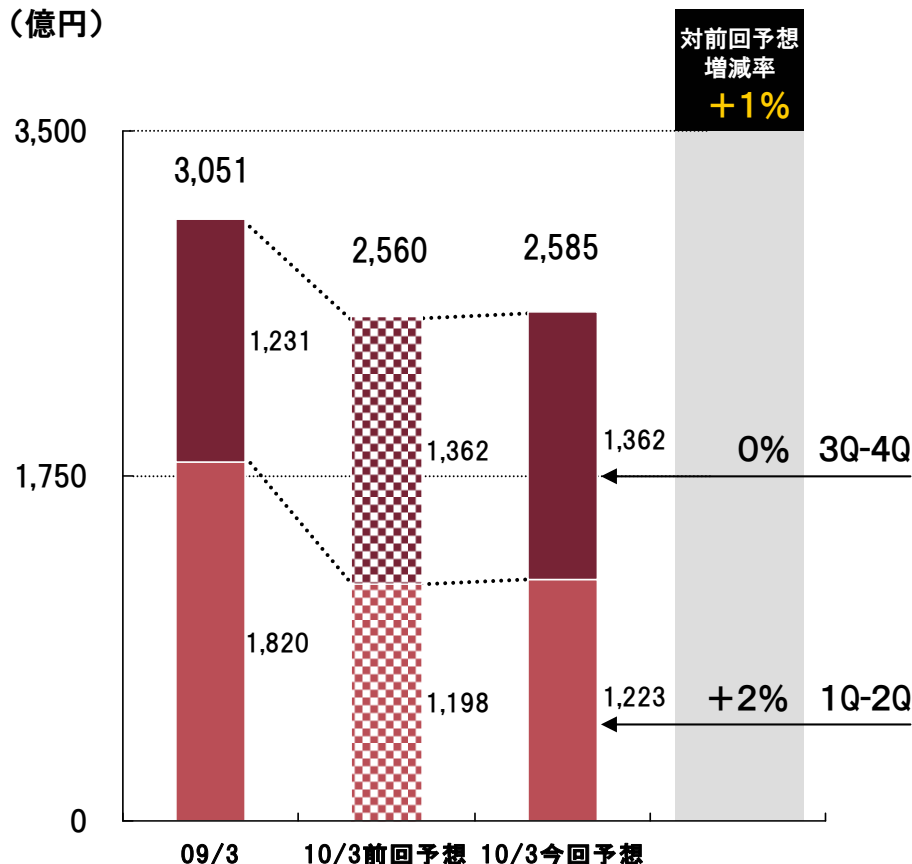
- ・チップマウンタの前半は、薄型TV需要増等による顧客稼働率の好転によりほぼ計画通り、後半は市場競争激化が予想されるも顧客投資案件の着実な取り込みを図る
- ・米国向け携帯電話の前半は、新製品投入効果等により計画比増、後半も顧客サポート強化により拡販を目指す
- ・自動組立装置や半導体デバイス等の前半は、景気後退による需要減により計画比減、後半も需要の力強さは欠くものの、計画達成に向け注力

2010年3月期 業績予想（先端産業部材）

売上高

主な偏差要因等

（億円）



- ・工業材料の前半は、自動車やIT関連向け中心に全般的に計画比減、後半も厳しい市場環境が継続するも、成長分野への営業強化により計画達成を目指す
- ・電子材料の前半は、シリコンウェーハはほぼ計画通り、また、PV関連製品・装置や光関連部材が堅調を維持、後半はPVや液晶向け取引等で売上増を目指す

IV

四半期業績の推移

(億円)

	08年1Q	08年2Q	08年3Q	08年4Q	09年1Q
売上高	1,829	2,404	1,633	1,883	1,325
営業利益	19	106	23	1	△38
経常利益	26	113	30	△4	△32
当期利益	△2	78	20	△25	△20

■セグメント別売上高

(億円)

	08年1Q	08年2Q	08年3Q	08年4Q	09年1Q
電子デバイスシステム	250	612	327	494	200
ライフサイエンス	248	243	213	273	207
情報エレクトロニクス	443	616	420	558	352
先端産業部材	888	933	673	558	566

主要製品群別売上高の状況

(億円)

	08年1Q	08年2Q	08年3Q	08年4Q	09年1Q
電子デバイスシステム	250	612	327	494	200
プロセス装置	83	206	141	103	64
評価・解析装置	94	187	77	162	61
液晶関連製造装置	22	116	64	190	41
HD関連製造装置	4	28	8	8	4
その他	47	76	37	31	31
ライフサイエンス	248	243	213	273	207
バイオ・分析	40	53	36	67	37
メディカル	189	177	154	190	158
その他	19	13	22	16	13
情報エレクトロニクス	443	616	420	558	352
情報システム	149	309	203	314	178
組立装置	50	94	32	79	23
半導体	85	83	40	57	40
メディアデバイス	68	56	38	42	41
その他	91	74	107	65	69
先端産業部材	888	933	673	558	566
工業材料	421	478	340	278	265
電子デバイス材料	240	224	137	106	139
光関連部材	74	81	62	70	65
その他	153	150	134	105	96

<資料取り扱い上の注意>

- ① 本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結です。
- ② 数値情報は、億円未満を四捨五入しています。
- ③ 増減率は、基本的に円単位で計算しています。
- ④ 本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに策定されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況、為替相場など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



END

2010年3月期 第1四半期決算補足資料

お問合せ先
社長室 広報・IRグループ 部長代理 加藤 弘之
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943
E-mail:kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

日立ハイテク

最先端を、最前線へ。